

「3年生の皆さんへ」

校長 安藤 徹



とうとう令和4年度の最後の月、3月になりました。3年生が岩戸養護学校を旅立つ日まであと10日ほどとなってしまいました。

思い返せば今から3年前、3年生の皆さんと一緒に私もこの学校にやってきました。その当時は、日本中の誰もが未知の病である「新型コロナウイルス感染症」の恐怖に怯え始め、学校も5月末まで臨時休業になるなど、前例のない状況の中で岩戸養護学校での生活が始まりましたね。入学式だけは何とかできたものの、きっと誰もが「この先の自分の学校生活はどうなってしまおうのだろう？」という不安やあせりの気持ちでいっぱいだったことと思います。

先が見えない、当たり前前の方が当たり前前にはできないことが続いた3年間で、3年生の皆さんには学校生活でいろいろな「がまん」をしてもらいました。しかし、どんな状況でも、どんな時でも何事にも前向きに精一杯頑張っている皆さんの姿には何度も感動させられました。心から「ありがとう」の言葉を送りたいと思います。

皆さんのこれからの長い人生で、このような状況の3年間を経験することはまずないことだと思いますし、ないことを心より祈っていますが、何よりも大切なのはこの3年間でできなかったことを振り返っていつまでも後悔するのではなく、この3年間で少しでもできたこと、できるようになったことを大切な宝物にして自信をもって次のステップに進んでほしいということです。

そして、実は皆さんにはこの3年間で手に入れることができた大切な宝物がもう一つあるのです。それは、この3年間という時間で岩戸養護学校でしか出逢うことがなかった「友だちや先生」です。そしてその人たちとの「絆(きずな)」です。絆というのは人と人が出逢って、時間をかけて作り上げた固い結びつきのことをいいます。ぜひその絆をいつまでも大切にして、これからもみんなで支えあったり、助け合ったりしていけるとよいですね。



ところで、「卒業」という漢字の「卒」という文字には「何かを終える」という意味があります。私事で恐縮ですが、もうかれこれ35年ほど前の大昔に高等学校で英語を教えておりましたが、「卒業」を英語で表すと graduation (グラデュエーション) というのだということ思い出しました。そこでこの言葉の語源を調べてみるとラテン語の「gradus (階段・段階)」が元になっていることがわかりました。

まさしく岩戸養護学校を「卒業」することは終わりではなく、次の段階へ進むためのスタートです。皆さん一人ひとりがこれから上っていかねばならない「階段」はそれぞれちがいます。段数も傾斜も違うかもしれません。でも一段一段ゆっくりでよいので、自分のペースで上を向いて確実に階段を上がっていけばきっと自分が目指す目標やゴールにたどり着けるはずです。これからの皆さんに期待しています。「卒業おめでとう」

令和5年3月1日

～1年間岩戸養護学校ホーム・ページ、管理職だよりをご覧くださいありがとうございます～

